

(実践報告)

附属小学校第4学年におけるドラムサークルの実践
——附属小学校、保護者、大学の連携——

西田 治 (初等教育講座)

はじめに

本稿は、2011年10月20日(木)に行われた附属小学校第4学年の保護者会(育友会)にてドラムサークルを実施した活動報告である。

1. 活動報告

(1) 概要

日時：2011年10月20日(木) 14:10～15:40 約90分

対象：児童約120名、保護者約120名、スタッフ約20名 計 約260名

場所：附属小学校体育館

準備した楽器は、以下の通りである。

○サウンドシェイプ：70枚

○小物打楽器：250個

(ギロ、ウッドブロック、シェイカー(卵型、フルーツ型)、アゴゴベル、すず)

○手作り楽器：児童全員(約120個)

○ドラム：65台

(ジャンベ、トゥパーノ、アシーコ)

○ベースドラム：10台

(パイアバスドラム、スルド、タンタン)

(2) 当日に至るまでの取組み

①打合せ

第1回打ち合わせ：6月8日 大学にて 附属小学校4学年担任、保護者会役員、西田
内容：実施内容の打ち合わせ、日程の確認など

第2回打ち合わせ：9月12日 大学にて 保護者会役員 西田

内容：具体的な内容の確認、当日の流れ、準備物の確認など

②音楽科の授業との連携

1) 手作り楽器の作成

附属小学校の音楽担当の教諭と相談の上、第4学年の教科書教材である《音のカーニバル》（教育芸術社）を扱う題材にて手作り楽器を作成し、それをドラムサークルで使用するごととした。手作り楽器については、制約は設けなかったが、あまりにも音が小さい手作り楽器だとドラムサークルには適さないため、ある程度音量の出る楽器の製作となるよう配慮してもらった。

2) 合唱練習

今回の保護者会のために筆者が作詞・作曲した合唱曲《いっしょに》を音楽科の授業で練習してもらい当日を迎えた。この曲をつくるきっかけとなったのは、事前打ち合わせの際に保護者会の代表の方がおっしゃった「今回の育友会がみんなと一緒に何かを共有した、という経験となれば嬉しいです。」という言葉である。この「共有」という言葉に深く共感したと同時に、一緒に音楽を共有できる喜び、一緒に過ごせることの感謝を伝え合う歌をつくりたいと考え作曲した。この楽曲は、当日、保護者の方もすぐに歌えるようにサビの部分を「ありがとう」の掛け合いとなるよう作曲している。

(3) 当日の実施内容

当日の流れは、①準備、②アイスブレイク、③ドラムサークル、④クールダウン（トーンチャイム）、⑤合唱である。以下、概略を紹介する。

①準備（12:00～12:30）

打ち合わせ後、すぐにパイプ椅子のセッティングをし、その後、楽器の梱包をほどこき所定の位置にセッティングした。保護者会の方、先生方、学生スタッフ、総勢30名ほどで30分で終了。



②活動開始：アイスブレイク（14：10～）

簡単なリズム遊び（ボディパーカッション）からスタートし、次にシェイカーパスを行った。隣の人にシェイカーをパスしていくだけのシンプルなゲームである。次第にシェイカーをパスする速度を上げること、上手くパスできずにシェイカーを落としてしまうが、「落としても拾わない」と事前に約束をしておき、そのまま続行する。すると、シェイカーを落とすたびに「あっ！」という声と共に笑いが起こる。速度を上げ、シェイカーがだいぶ落ち、それと共に笑顔があふれたところでストップ。この活動後、シェイカーを落としてしまっても笑っていたように「今日は、失敗も楽しもう！」と伝える。保護者の方には、多少、子どもたちがはしゃいでも危険でない限り制止せずに見守ってほしいことも合わせて伝えた。ドラムサークルでは、ユーモアや創造性が重要となるため、こういったアイスブレイクは非常に大切であると考えている。

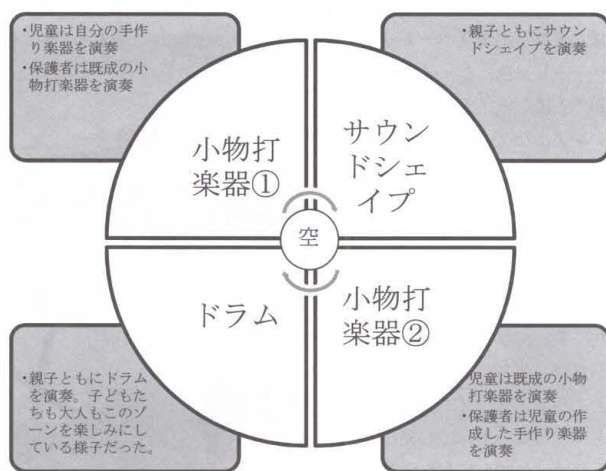


また、最初に行った自己紹介では、筆者のことを「サム」と呼んでくれるように伝えた。これは、ドラムサークルや音あそびを行う際には必ずお願いしていることである。それは、ドラムサークルを教える「先生」としてきているのではなく、一緒に音楽を楽しむ「仲間」としてきていることを示すためである。

③ドラムサークル

ドラムサークルでは、全体を4つのゾーンに区切り、楽器を配置した。図1を参照。4つの場所を移動することで、全員がまんべんなく様々な楽器に触れられるためにこの形をとった。このアイディは、アーサー・ハル氏から以前に提供していただいたもので、筆者が好んで使用しているセッティングである。ドラムサークルのオーケストレーションという意味では、デメリットも多いが、場所を移動することで全員がドラムと小物打楽器を担当できる点に気に入っている。やはり、多くの子どもたちはジャンベなどのハンドドラムに触りたいという希望を持っているため、それをかなえる方法として、このアイディアは有効である。





【図 1 セッティング表】



← ジャンプインタイム！
子どもによるファシリテーション

↓ 夢中になってジャンベをたたく様子。



④クールダウン（トーンチャイム）

クールダウンとしてトーンチャイムとフィンガーシンバルを使用した「世界一周」を行った。この活動は、ドラムサークル・ファシリテーターであり、東京都の小学校教諭である菊本るり子先生から教えて頂いた活動である。ファシリテーターの腕の動きに合わせて奏される柔らかな金属音は、ドラミング後の耳に心地よく、音と音の間が醸し出す幻想的な雰囲気は、ドラミング後のクールダウンとして最適な活動であったと考える。この後、10分間の休憩をはさんだ。

⑤合唱（～15:40）

サークルの中心に子どもたちを集めて、合唱を行った。下の写真では、子どもたちが円の中心に向かっていて、最終的には、円の外を向き保護者と向き合う形で合唱となった。「ありがとう」の掛け合いが聞いている筆者の気持ちまで優しくしてくれた活動であった。時間の関係上、短い時間での活動となった。



【サークルの中心に集まり合唱の練習をしている様子】

2. 本実践の意義と課題

(1) 意義

①附属小、保護者、大学の連携という観点から

事前の打ち合わせから当日のイベントの運営までを共に行うことで、附属小学校、保護者、大学の連携が深まったと考える。保護者会の役員、担任教諭と共に大学にて事前打ち合わせを行ったり、筆者自身も附属小学校を訪れ、合唱の練習や手作り楽器の制作過程を参観した。互いに行き来しながら一つのイベントを実施することによって、一つの共同関係を築くことができたと考えている。当日参加した保護者の方からの感想からも今回の連携の意義を実感することができた。

【保護者の方の感想】

- 今回のように長崎大学から先生に来ていただいて学ぶことは、附属学校としての特徴を生かすことでもあり、理想的な形だと思いました。
- 親子で取り組める、そして友人や先生と一緒に過ごした大切な時間となりました。また学生さんが参加して下さったり、大学の楽器を使うことができたりと、附属ならではの良さを実感できた会でした。今後、こういった機会が増え、それぞれの良さがお互いに生かされていくと良いなと思いました。
- こんなに素敵で素晴らしいTVでみたことのある公開授業のような場所に参加させてもらい感謝感激でした。身近にこんな先生がいらっしゃるので、もっともっと小学校、中学校、大学との交流の中で触れ合う時間が増えると良いなと思いました（一部、筆者要約）。

②ドラムサークルそのものの意義

ドラムサークルの意義であり、筆者が最も魅力を感じているのは、音楽の得意・不得意を問わずに、その場で集まった人々で音楽を共有できる点である。その点においては、筆者の行っている「音あそび」の実践でも同様の意義と魅力があるが、参加できる人数の点で異なる。音あそびは人数の制限がかかるが、ドラムサークルは、会場と楽器の確保という物的な環境が整えば、今回のような大人数での活動ができる点が最大の魅力である。

大勢の人が集い、その場で共に音楽を共有できることこそドラムサークルの意義であり、最大の魅力だといえよう。今回のように保護者、子どもたちが事前の練習なく共に音楽を共有できたのは、このドラムサークルの特質の恩恵にほかならない。それは、次の感想を見ても明らかである。

【保護者の方の感想】

・・・「ドラムサークルに関する感想をお願いします」という問に対する回答

- 親子共々、初めて触れる楽器に興味津々で、夢中になってたっていました。200人余りの人達が自由に音を出しているのに、一つの音楽になっていることに感動しました。集中していたので、あっという間に時間が過ぎていきました。とても楽しいひと時でした。
- 無心になって大笑いするでもなく、楽しく隣の子どもと自然に笑いながら参加できる、皆さんで一体になれる、いつの間にか夢中になっておりました。
- 会場にいた約200人がそれぞれに好きなリズムをとっているのにサム先生の指揮だけで、それぞれの音に一体感が生まれ、いつも耳にするメロディーのある音楽とは違った音の魅力にひきこまれ、子供だけでなく私も十二分に楽しむことができました。親子レクレーションとしてとてもよかったと思います。
- 初めてドラムサークルというものを知りました。多くの人と心をつなげて、楽しい音をつくっていく、正しいという答えは一つではなくて、失敗もまた正しくて、それを楽しもうという想いが伝わってきました。親子共々、素晴らしい時間を過ごすことができました。
- 練習したわけではないのに、気軽に、しかも、大勢の人数でも演奏することができ、楽しい時間を過ごすことができました。
- 練習なしであんな楽しい音楽ができるドラムサークルってすごいと思いました。とても楽しかったです。ありがとうございました。
- たとえ音符が読めなくてもだれでも気軽に音楽を楽しむことができるのだと感じました。みんなでいろんな楽器を使って奏でた音はすてきな音楽でした。普段触ることのない珍しい楽器に実際に触れたことは、とても貴重な経験でした。
- 楽器の演奏経験の有無も問わず、みんなで音楽で一体感を共有できる「ドラムサークル」本当に楽しい時間であつという間のひと時でした。みんなでリズムをそれぞれの楽器で刻み合うことによって生まれる気持ちの良さ！4年生のみなさんと共有できたことが何よりも幸せでした。この様な活動があるということもはじめて知ったのですが、ぜひたくさんの方々に体験して頂きたいと思います。
- 本当に楽しかったです。大勢でやり遂げた一体感や音を出すときの集中力は、日頃感じる事ができないことです。親、子どもと同じように心から楽しめたと思います。あっという間に思える時間でした。
- 充実した時間でした。珍しい手にしたことのない楽器を目にし、音をならして、興奮しました。第4学年という同学年でもすべてのお子さん、お母様と知り合いなわけでもないのに、西田先生の合図にあわせて音を伝え合うことで学年でも一体感を得られたと思います。子どもの動きを制止しない、という約束でしたが、楽しくなってしまった私が逆に娘から「今はダメだよ。」「こうしなきゃダメだよ。」と言われ苦笑い。日頃の私の口ぐせでしょう…。
- もしかしたら一生触れずに終わるかもしれないドラムに触れたどころか好きなようにたたかせてもらって親子共々貴重な体験をさせていただきました。手作り楽器も作る喜び、またそれを使ってリズムを刻む喜び、みんなと合わせて音をつくっていく喜び楽しさ、一粒でたくさん味わうことができたと思います。サークルの配置も4つに分かれていたのも、どンドン場所がかわっていき親も子もワクワク感を持続でき新鮮でした。

- ドラムサークルってとても楽しいですね。我を忘れさせるほどの魅力的なものでした。ドラムサークルが終わった後、とてもスッキリとした気持ちでした。また機会があったらぜひ参加したいです。親子です。お世話になりました。ありがとうございました。
- 日頃あまり目にふれたことのない楽器と先生の「お好きにどうぞ」ではあるのですが、合図によって止まったり、また演奏したり「一緒に」「みんなで」とも心地よいものでした。ありがとうございました。男の子である我が子が時々ちらっと横を見てにこっとしながら楽器をたたくのです。こういうことももしかしたらこの先ないのかも…と思うと貴重な時間でした。
- 親子でとても楽しい時間を過ごさせて頂きました。娘は見たことも触れたこともない珍しい楽器を演奏できたことに興奮し、始終ハイテンションでした。サム先生のリードのものと、みんなが笑顔で、夢中になって奏でた音楽は、圧巻というより他はないと思います。この様に素敵な時間を共有できたことを、役員の皆さま方に心より御礼申し上げたいと思います。本当に有難う御座居ました。今までのどの親子レクレーションよりも、とても楽しかったです。娘も、そう申しておりました！
- 一番最初に自由に音を出した際、「スゴイ！！おしりブルブルふるえるね！」と親子でおどろきました。皆が出す音の力（振動）にまず感動し、楽譜のない自由な中で先生の合図だけですばらしい音楽ができていく過程を親子で楽しみました。また、普段は触ることのできない楽器にたくさん触れる事ができ、子供もとても喜んでいました。
- とても楽しかったです。打楽器だけであんなに様々な音楽が奏でられるとは驚きでした。子も親もイキイキ、ウキウキ楽しかったです。
- 先生の「ミスを楽しもう！！」という言葉が印象的でした。「ミス」をつい責めてしまいがちですが、それを楽しむ心の余裕を持つことができれば、全てが「good !!」になりますよね。
- あつという間の90分でした。普段触れることができない楽器を使って、楽しんだ思い出は、ずっと心に残ると思います。私たちだけでなく、皆の生き生きとした表情にこちらもうれしくなりました。このような素晴らしい機会を与えてくださったことに感謝いたします。

以下、子どもたちの感想をいくつか紹介する。

ドラムサークルの感想

たいたり、ひいたりしたことがない、いろいろな楽器とふれあて楽しかったです。みんな、はうはらのリズムなのに、ひとつの音楽になっていたのとても楽しかったです。いろいろな楽器の音の高さなどで、音楽をつくることをしました。マラカスやたいこなどと同じ楽器なのに、いろいろなかわい音がひいていたのか、とてもおもしろかったです。男の子と女の子で、かわいかわい音がかわるのか、ふしぎでした。

ドラムサークルの感想

ドラムサークルは、前からずっと楽しみにしていて、いざいかにやってみたら、そうそうしていたよりもすごく楽しくて、思ったよりもたくさんの楽器を、にたいたりできたから、すごくうれしかったです！楽器にも、たくさんゆゆるいがあるのも、たくさんさんの楽器を、えんそうしてみたいなあと思いました！みんなで、たくさんさんの楽器をえんそうするのはとてもうれしくて、音楽の楽しさを知ることができました！私は前から音楽が大好きで、このドラムサークルをして、音楽がもっと好きになりました！また、さかいがあるなら、ドラムサークルをやりたいなあと思いました。

ドラムサークルの感想

ぼくは、はじめにドラムサークルをして、最初はずごくきょうして、すごくドキドキしてました。やってみたら見たことのない楽器があって、すごくおもしろかったです。それで、サム先生が「お好きにどうぞ」と言っておんなちがウリスンで、楽器をなして、よく聞いた一つの音楽になて、いたのもおもしろかったです。

ドラムサークルの感想

私はドラムサークルを始めてやりました。実さきにやってみるととてもおもしろく、楽しくやることができました。私がいちばんおもしろかった楽器は、いろいろな形をした。たいていたくさん時でした。最初たたいた時、すしきかいたかったけど、なれてくると、いい音かいて、とてもおもしろかったです。あのおきにどうぞ、というところでも、むいリズムで、ビックリしました。このドラムサークルをまたやりたいなと思いました。

ドラムサークルの感想

先日は、とっても楽しかったです。みんな楽しく音楽と、ふれあえたのは初めてです。よくに、楽器の「好きにどうぞ」の好きなリズムをたくさん所か、音おもしろかったです。何回かすたたくだけで、音楽がうまれると、ついにわくわくしました。音楽は、作者がいて、作しがあって、それを演奏する人がいると思。たけな、たけな、たけな、作者になて、楽しくできる人なあと、音楽が大、大、スゴきになりました。これから音楽とふれあうは、はらして、感じ、音楽なんて、つまんない、なんて、思っている人たちに、音楽を、みんなに、楽しいよ、と、考えを、あげた、と思いました。

ありがとう。

ございました。

③その他

以上2点のほかにも次の二つの意義があったと考えられる。

一つ目は、本実践が、本格的な楽器を揃えての大規模なドラムサークルだということである。本実践のために神奈川県のレストラン会社から約60台のハンドドラム（ジャンベやトゥパーノなど）をレンタルし、本格的なドラムをそろえて実践にあたった。これは、本物に触れるという観点からも意義があったものと考えている。

二つ目は、音楽科の授業との連携を図っていることである。今回のイベントが子どもたちの学校生活からかけ離れた存在ではなく、子どもたちの日々の学びの延長線上として位置するように配慮した。具体的には、音楽科の教員と連携し、4学年の教科書教材（教育芸術社）である《音のカーニバル》で使用した手作り楽器をドラムサークルで用いることができるようにしたこと、当日、保護者と共に歌う合唱曲の練習を行ったことの2点である。

（2）課題

筆者個人の反省点としては、以下の3点が挙げられる。

①時間配分

休憩時間が不十分であったこと。体育館内が蒸し暑かったこともあり、子どもたちの集中力に支障をきたしていた。これは、子どもたち全員に十分に太鼓に触れてもらいたいという想いから起こったことであるが、限られた時間の中でいかに満足度の高い活動を提供できるかについては、改善の余地があると考ええる。

②ファシリテーション

筆者は、ドラムサークルの父と称される打楽器奏者のアーサー・ハル氏のプレイショッップ（ドラムサークルのファシリテーション研修）を2008年度から受講し、ドラムサークルの理論面への理解を深めること共にファシリテーション・スキルの獲得に力を入れてきた。ドラムサークルのファシリテーターに必要なことは、参加者の力を信じ引き出すことである。ハル氏から何度も忠告を受けたことの一つに「必要以上にドラムサークルの中心にいてはならない」ということがある。筆者自身、ファシリテーションする際には、特に意識している点であるが、今回は、サークルの中央にいる時間が総じて長かったと省みている。ファシリテーターがサークルの中心にいればいるほど、参加者は操られているように感じ、受動的な演奏となってしまう。ファシリテーション上の課題は今後も意識していきたい。

③安全面への配慮

たくさんの楽器を用いるドラムサークルでは、安全面への配慮はとくに重要である。人数が多いほど配慮しなければならない項目は増える。今回のドラムサークル時は、大きなハブニングがなく進行したが、合唱の際にヒヤッとする場面が一つあった。ドラミングの後は、気持ちも高ぶっているため、安全面への配慮は教室に戻るまで配慮しなければならない。ま

ずは、子どもたちが安全に活動できるよう、物の配置の仕方、指示の仕方、充分な活動スペースの確保に努めていきたい。ただ配慮したうえでハプニングが起こった際には、失敗さへも楽しむという受容的な雰囲気で行うドラムサークル時には、厳しい言葉がけは、できるだけ避けたいと常々、考えている。今回は、合唱の際に子どもたちが押し合いながら並んでいる場面が見受けられた。その際には、「みんながけがをしてしまったら、とても悲しいよ」とメッセージを使って子どもたちに伝えた。終了後、「自分がもっと事前に配慮しておけば、押し合いながら並ぶこともなかった」と反省すると同時に「危ない場面であったからもっとしっかりと注意すべきであったのかもしれない」と思う気持ちもあった。そんな中、保護者の方から次のような感想を頂いた。

○西田先生を中心に押し合いながら集まった子どもたち。一昔前の学校でしたら、「こらーあ。」と大声があったかと思いますが、「こらーあ。」のあと、縮こまる子どもたちより、西田先生のように子どもを見守ることが、どんなに大切な、目の当たりにしました。

温かいコメントに感謝すると同時に、安全面への配慮に欠けた筆者自身の計画について反省し、その時々言葉がけについてはこれからも勉強を続けていきたいと改めて思われた言葉であった。

以上3点が筆者自身の反省点であり今後の課題である。

また、今回のような大規模なドラムサークルを行うに当たっては、楽器と場所の確保が課題となると考えられる。本格的な楽器に触れさせなければ予算面での工夫が必要であろうが、手作り楽器などを上手に活用することでクリアできる面も大きい。ただし、どのような楽器を用いるかは、非常に重要な点である。なぜなら、それがそのままドラムサークルの音色となるからだ。楽器を用意する場合には、ドラムと小物打楽器の配分、また小物打楽器も木製、金属製、シェイカー類の配分に配慮し全体の音色の調整に配慮したい。

おわりに

今回のドラムサークルは、保護者会役員、担任の先生方の熱意がきっかけとなり実施に至った。大規模なドラムサークルであったため、実施に至るまで様々な壁があったが、いずれも保護者会の役員の方々が乗り越えてくださり実施に至っている。こういった大きなイベントは、誰かが熱意を持って取りかからなければ実践にまで至らない。保護者会役員の方々の熱意に心から感謝の意を表したい。そして、今回のような機会に巡り合えたことに感謝すると同時に、これを機に附属学校、保護者、大学との連携を深めていきたいとも考えている。

また、保護者会で大規模なドラムサークルを実施した例は、まだ少ない。今回の事例を分析し、今後の活動の糧とすると同時に必要に応じて情報発信していきたい。

付記

本実践は、学部長裁量経費の助成を受けて実施した。